

## 庁内GIS（地理情報システム）を用いた防疫マップシステムの構築

京都府中丹家畜保健衛生所

八谷純一 西野洋

【はじめに】京都府では、高病原性鳥インフルエンザ等の急性伝染病発生時に迅速な初動防疫を行うため、市販の電子地図を利用して農場等の位置情報を入力し、発生場所や周辺農場の位置を表示可能な防疫マップを整備してきた。一方、国や自治体で災害等の情報管理に利用しているGISが平成19年に庁内に導入され、このシステムが防疫マップとして利用可能であるかを検証した。

【防疫マップへの応用】GISは位置情報等のデータを高度に管理・分析・表示する機能を有する。家保で実測した農場の位置情報に加え飼養羽数等の付随情報も入力でき、マップに表示可能であった。また、移動制限区域の設定に必要な発生場所を中心とした任意半径の円描画、個々の農場の検索のみならず、区域内の農場情報も一括出力でき、データは市販の表計算ソフトで加工できる。さらに、衛星写真を地図に表示可能で、農場内の建物の配置が正確にわかるため、初動防疫のシミュレーションが容易となる。本システムは利用者に配布されたIDでのみ利用可能で、個人情報を保護しつつ、庁内端末のどこからでも農場情報を共有できる。

【まとめ】以上のように、GISが防疫マップとしての機能を十分に有し、さらに迅速な初動防疫に寄与することが確認できた。